

中期目標の達成状況に関する評価結果

申立ての内容	申立てへの対応
<p>【評価項目】 (1) 教育に関する目標 (2) 教育の実施体制等に関する目標 ①中期目標 (小項目) 『教育環境を整備、充実し、教育の効果を高めるとともに、快適な学習環境の実現を目指す。また、多様な学生のニーズに配慮し、学生生活におけるアメニティの充実を目指す。』の判定 ②計画番号1-2-2-1の判定</p> <p>【原文】 ①おおむね良好 ②おおむね良好</p> <p>【申立内容】 ①「良好」とするべきである。 ②「良好」とするべきである。</p> <p>【理由】 計画 1-1-5-1 においては、アカデミック・リンク・センターを中心に、先進的な取り組みによりアクティブ・ラーニングを推進していることが「特色ある点」として高く評価されているが、<u>中期目標の達成状況報告書に記載したように、これらは附属図書館が中核となり、「アクティブ・ラーニング・スペース」「ティーチング・ハブ」「コンテンツ・ラボ」の3機能を提供し、様々な学習支援活動を展開したことによる成果である。</u></p> <p>附属図書館を基盤とした同センターの取り組みは、平成 23 年度から全国の国公立大学に先駆けて実施したものであり、<u>我が国の大学における教育・学修支援のひとつのモデルとして、(1) 中央教育審議会「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生</u></p>	<p>【対応】 原案のとおりとする。</p> <p>【理由】 達成状況報告書等では当該中期目標 (小項目)、中期計画に係る取組が確認できるものの、意見の内容を考慮しても、その成果が「優れている」とまではいえない。</p>

涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）資料編（平成 24 年 8 月）」で提示されるとともに、(2)「アカデミック・リンクによる千葉大学の教育改革」が文部科学省の『大学図書館における先進的な取組の実践例（平成 25 年度）』の中でも意欲的な取組事例として挙げられている。

(1)

http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shinngi/toushin/_icsFiles/afiedfile/2012/09/10/1325048_10.pdf

(2)

http://www.mext.go.jp/a_menu/kaihatu/jouhou/1341375.htm

計画 1-2-2-1 は、計画 1-1-5-1 で「特色ある点」として高く評価された「アカデミック・リンク」の基盤となる本学の教育実施体制の計画における「学習上必要な資料の体系的整備と授業に密着した情報提供機能」の拡充・強化の状況である。さらに、RFID 技術を活用した「授業資料ナビゲータの作成」や「国内初の PDA での電子書籍購入」は、総合大学として多様な学生の様々なニーズに対応した資料の整備・充実という点で、大学図書館における先駆的な取組として当初の計画を上回る成果を挙げており、これらの資料がティーチング・ハブやコンテンツ・ラボによるアクティブ・ラーニングに活用されている。

また、国立大学評価委員会による年度評価結果においては、授業資料ナビゲータの作成（平成 24・26 年度）、PDA での電子書籍購入（平成 27 年度）のほか、ALSA-LS による学習相談件数が大幅に増加（平成 24 年度：232 件、平成 25 年度：352 件、平成 26 年度：435 件、平成 27 年度：434 件）していることが、アクティブ・ラーニングの活性化や他大学にはない特徴的な取り組みとして高い評価（平成 24・27 年度）を得ている。さらに、平成 26 年度大学機関別認証評価結果において、「学

生の自主的学習を支援する施設・設備として、大小様々な広さや静穏化の区別に配慮した学習室やエリア・スペースを附属図書館本館(アカデミック・リンク・センター) やアクティブ・ラーニングゾーンに整備している。」ことについて「優れた点」として高く評価されている。

このように計画1-2-2-1の取り組みは、アカデミック・リンク機能の一部であり、かつ同センターと附属図書館の一体的な教育・学修環境の充実にむけた活動が文部科学省や他の国公立大学・教育関係機関だけでなく、「教育関係共同利用拠点」の認定をはじめ法人評価や大学機関別認証評価で高く評価されている。

以上のことから、教育内容及び教育の成果等の同センターの活動(計画1-1-5-1)と不可分の関係にある計画1-2-2-1については、全国トップレベルの教育実施体制を実現し、我が国の大学における教育・学修支援のモデルとなっていることは周知の事実であり、判定については前述の先進性・独自性から「良好」とするべきである。

中期目標(小項目)についても、前述したように、「教育環境の整備・充実」については、「教育関係共同利用拠点」の認定をはじめ数々の外部からの高い評価、「教育効果の向上」については、授業時間外学習時間の増、「多様な学生のニーズに配慮したアメニティの充実」については、RFID技術の活用や国内初のPDAでの電子書籍購入、学生の自主的学習を支援する施設・設備整備などの先進性・独自性の観点から、当初の目標を上回ったと総合的に判断できることから、「良好」とするべきである。